

前回 :

- 同値関係による類別・商集合
- 剰余環 $\mathbb{Z}/m\mathbb{Z}$

今回はその補足から

合同式 $a \equiv b \pmod{m}$ は、
剰余環 $\mathbb{Z}/m\mathbb{Z}$ 内での等式 $\bar{a} = \bar{b}$ と考える

今までの合同式に関する定理を、
剰余環 $\mathbb{Z}/m\mathbb{Z}$ の性質として書き直しておこう

合同式の基本性質

以下暫く、法 m を固定して $(\text{mod } m)$ を省略

- 合同関係 \equiv が同値関係

- ★ $a \equiv a$ (反射律)

- ★ $a \equiv b \implies b \equiv a$ (対称律)

- ★ $a \equiv b, b \equiv c \implies a \equiv c$ (推移律)

- 類別・商集合 $\mathbb{Z}/m\mathbb{Z}$ が作れる

- 演算との関係

- ★ $x \equiv y \implies x \pm c \equiv y \pm c, cx \equiv cy$

- ★ $a \equiv a', b \equiv b' \implies a \pm b \equiv a' \pm b', ab \equiv a'b'$

- 商集合 $\mathbb{Z}/m\mathbb{Z}$ に加法・乗法が引起こり、

可換環を成す

剰余環 $\mathbb{Z}/m\mathbb{Z}$ の性質：乗法群 $(\mathbb{Z}/m\mathbb{Z})^\times$

拡張版 **Euclid** の互除法より

$$\gcd(a, m) = 1 \implies \exists x, y \in \mathbb{Z} : ax + by = 1$$

→ $a \in \mathbb{Z}/m\mathbb{Z}$ に対し、

$$\gcd(a, m) = 1 \implies \exists x \in \mathbb{Z}/m\mathbb{Z} : ax = 1$$

即ち、

$$(\mathbb{Z}/m\mathbb{Z})^\times = \{a \in \mathbb{Z}/m\mathbb{Z} \mid \gcd(a, m) = 1\}$$

有限体 $\mathbb{Z}/p\mathbb{Z}$

特に、法が素数 p のとき、
 $a \in \mathbb{Z}/p\mathbb{Z}$ に対し、

$$a \neq 0 \implies \exists x \in \mathbb{Z}/p\mathbb{Z} : ax = 1$$

即ち、

$$(\mathbb{Z}/p\mathbb{Z})^\times = \mathbb{Z}/p\mathbb{Z} \setminus \{0\}$$

このように、
0 以外の元が全て可逆である可換環 ... **体 (field)**

$\mathbb{Z}/p\mathbb{Z}$: 有限体 \cdot p 元体 (\mathbb{F}_p とも書く)

affine 暗号

- 文字種 : m 種類 ($0, 1, \dots, m-1$ に符号化)
- 鍵 : $a, b \in \mathbb{Z}$ ($0, 1, \dots, m-1$ のどれか)
但し、 $\gcd(a, m) = 1$ とする
- 暗号化 : $E(x) \equiv ax + b \pmod{m}$
- 復号 : $D(y) \equiv c(y - b) \pmod{m}$
(ここに c は $ac \equiv 1 \pmod{m}$ を満たす整数)

→

- 文字集合 (**alphabet**) : $\mathbb{Z}/m\mathbb{Z}$
- 鍵 : $(a, b) \in (\mathbb{Z}/m\mathbb{Z})^\times \times \mathbb{Z}/m\mathbb{Z}$
- 暗号化 : $E : \mathbb{Z}/m\mathbb{Z} \longrightarrow \mathbb{Z}/m\mathbb{Z} ; x \longmapsto ax + b$
- 復号 : $D : \mathbb{Z}/m\mathbb{Z} \longrightarrow \mathbb{Z}/m\mathbb{Z} ; y \longmapsto a^{-1}(y - b)$

Fermat の小定理

p : 素数のとき、

- $\forall a \in \mathbb{Z} : (a, p) = 1 \implies a^{p-1} \equiv 1 \pmod{p}$
- $\forall a \in \mathbb{Z} : a^p \equiv a \pmod{p}$

→

- $\forall a \in \mathbb{Z}/p\mathbb{Z} : a \neq 0 \implies a^{p-1} = 1$
- $\forall a \in \mathbb{Z}/p\mathbb{Z} : a^p = a$

実は、群論の基本的な性質

- G : 有限群、 $\#G = n$ のとき

$$\forall a \in G : a^n = 1$$

からも直ちに分かる

原始根の存在

p : 素数に対し、

- $\forall a \in \mathbb{Z} : (a, p) = 1 \implies a^{p-1} \equiv 1 \pmod{p}$
- 逆に $\text{ord}(g \bmod p) = p - 1$ のとき、
 x が p を法とする**原始根**であるという
- このとき、 $g^1 (= g), g^2, \dots, g^{p-2}, g^{p-1} (\equiv 1)$ に、
 0 を除く全ての剰余類が現れる
- 原始根が存在する

→

- $\forall a \in (\mathbb{Z}/p\mathbb{Z})^\times : a^{p-1} = 1$
- $\exists g \in (\mathbb{Z}/p\mathbb{Z})^\times : (\mathbb{Z}/p\mathbb{Z})^\times = \langle g \rangle$
- 特に、 $(\mathbb{Z}/p\mathbb{Z})^\times$ は巡回群

実は一般に、体の乗法群の有限部分群は巡回群

中国式剰余定理 (孫子の定理)

$(m, n) = 1$ のとき、

- $a \equiv b \pmod{mn}$
 $\iff a \equiv b \pmod{m}, a \equiv b \pmod{n}$

→

$$\mathbb{Z}/mn\mathbb{Z} \xrightarrow{\sim} \mathbb{Z}/m\mathbb{Z} \times \mathbb{Z}/n\mathbb{Z} \quad (\text{環同型})$$

離散対数問題 (Discrete Logarithm Problem)

p : 素数

$g \in \mathbb{Z}$ を 1 つ取って固定

問題 : x を与えたとき、

$g^a \equiv x \pmod{p}$ を満たす a を見出せ。

→

$G = (\mathbb{Z}/p\mathbb{Z})^\times$

$g \in G$ を 1 つ取って固定

問題 : $x \in G$ を与えたとき、

$g^a = x$ を満たす a を見出せ。

群 $G = (\mathbb{Z}/p\mathbb{Z})^\times$ に於ける離散対数問題

離散対数問題の一般化

以前扱った離散対数問題は、

有限アーベル群 $G = (\mathbb{Z}/p\mathbb{Z})^\times$ に於ける
離散対数問題であると言える

実は、有限アーベル群があれば、

離散対数問題が定式化できる

問題：

G ：有限アーベル群

$g \in G$ を 1 つ取って固定

このとき、 $x \in G$ に対し、

$$g^a = x$$

を満たす a を見出せ。

離散対数問題の一般化

任意の有限アーベル群 G に対して、
離散対数問題が考えられるが、

暗号に用いるには、

- 解くのは困難
- 作るのは (冪の計算は) 高速

である必要がある

例 : $G = \mathbb{Z}/m\mathbb{Z}$ (加法群) に於ける離散対数問題

$g \in G$ を 1 つ取って固定したとき、

$x \in G$ に対し、 $ag = x$ を満たす a を求めること

→ 互除法で容易に (高速に) 求まる

離散対数問題の一般化

離散対数問題が

- 解くのは困難
- 作るのは (冪の計算は) 高速
である (暗号に使える) 有限アーベル群の例
- 有限体上の楕円曲線の有理点の群
(楕円曲線暗号)
- 有限体上の超楕円曲線の **Jacobian** の有理点の群
(超楕円曲線暗号)
- 代数体の **ideal** 類群